

# 編修趣意書

(教育基本法との対照表)

受理番号	学校	教科	種目	学年
28-82	高等学校	芸術	音楽Ⅱ	
発行者の 番号・略称	教科書の 記号・番号	教科書名		
27 教芸	音Ⅱ 309	高校生の音楽2		

## 1. 編修の基本方針

教育基本法第二条に定められた教育の目標を踏まえ、音楽科における知識・理解を深め、思考力・判断力・表現力のバランスよい育成を図るために、次のような基本方針のもとに編修しました。

- 1 | 音楽科の学習を通して**知識・教養の確実な向上**を図ることができるよう、学習指導要領に示された「内容」と緊密な関連をもった学習が**確実に**行われるようにしました。
- 2 | 「創作」の学習などを通して**個人の創造性を培う**とともに、グループ活動等によって**主体的に「協働」**しながら学習を進めることができるようにしました。
- 3 | **命の大切さを尊び、他を尊重する心を養う**ことができるような歌詞をもつ教材を多く取り入れました。
- 4 | **我が国や郷土を愛する心を育成**することができるように、我が国の伝統的な音楽や郷土の音楽を教材として扱いました。

## 2. 対照表

図書の構成・内容	特に意を用いた点や特色	該当箇所
全般	<ul style="list-style-type: none"> <li>豊かな音楽的感性や情操を育成することのできる教材を選択・配列しました。(第一号)</li> </ul>	p. 8～105, p. 118～119
表現教材（歌唱）	<ul style="list-style-type: none"> <li>他を尊重したり，自然を愛する心を育てたりすることのできる教材や，道徳的観点と関連付けて取り上げられる教材を含めました。(第一号，第三号及び第四号)</li> <li>我が国の義太夫節を歌唱教材として取り上げ，我が国の伝統的な歌唱の学習を確実に行えるように配慮しました。(第五号)</li> <li>小中学校の歌唱共通教材をはじめとする我が国で長く親しまれている歌には「心の歌」という共通のロゴを掲載し，世代を超えて親しみ，歌い継いでいくという趣旨を生かした学習が行われるようにしました。(第五号)</li> </ul>	p. 8 「糸」, p.10 「何度でも」 p. 12 「Imagine」 p. 13 「見上げてごらん夜の星を」 p. 14 「からたちの花」 p. 64 「早春賦」, p. 66 「浜千鳥」 p. 88 「夏は来ぬ」  p. 53 『一谷嫩軍記』から  「目次」 p. 14 「からたちの花」 p. 64 「早春賦」 p. 66 「浜千鳥」 p. 88 「夏は来ぬ」
表現教材（器楽）	<ul style="list-style-type: none"> <li>各楽器の特性や基本的な奏法が理解できるように，分かりやすい写真と説明文を示しました。(第一号)</li> <li>和楽器を活用した学習活動を通して，我が国の伝統的な音楽に親しみ，そのよさを味わえるようにしました。(第五号)</li> <li>グループ活動の中で，協力しながら学習を進められるような教材を含めました。(第三号)</li> </ul>	p. 22 「Stand By Me」 p. 26 「秋の宵」  p. 26 「秋の宵」  p. 24 「One」, p. 98 「America」 p. 100 「Clapping Quartet No.2」 p. 102 「ノルウェーの森」 p. 104 「ロンド」
創作教材	<ul style="list-style-type: none"> <li>生徒一人一人の創造性を育成するために，創作の学習目標と学習内容を明確に示しました。(第二号)</li> <li>創作におけるグループ活動の中で，協力しながら学習を進められるような教材を含めました。(第三号)</li> </ul>	p. 28～31 BGM をつくろう  p. 28～31 BGM をつくろう

鑑賞教材	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 広く音楽文化に関わる知識に触れられるように配慮しました。また、互いに意見交換出来るようなコーナーを含めました。(第一号及び第三号)</li> <li>・ 我が国の伝統と文化を尊重する態度を育成するために、我が国の伝統的な音楽や郷土の音楽を、明確な学習の観点のもとに学習できるように示しました。(第五号)</li> <li>・ 他国を尊重する態度を育成するために、諸外国の伝統的な音楽を教材として取り上げました。(第五号)</li> </ul>	<p>p. 32～49 西洋音楽の鑑賞</p> <p>p. 50～52 文楽『一谷嫩軍記』 p. 54 能『敦盛』 p. 55 『平家物語』の音楽 p. 56～57 音の歳時記</p> <p>p. 58～61 世界の諸民族の音楽</p>
その他の教材	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 音符や休符、記号の名称や意味などをはじめとする、楽典の資料、また、オーケストラの編成や楽器の名称を含めました。(第一号)</li> <li>・ 古代から現代まで、西洋音楽と日本音楽の歴史を概観する「音楽史年表」を含めました。(第一号)</li> </ul>	<p>p. 107 オーケストラの編成 p. 108～113 楽典</p> <p>p. 114～117 音楽史年表</p>
口絵、写真資料	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 我が国の伝統芸能である歌舞伎が西洋の古典文学の題材を取り入れた公演を見開きの写真で紹介し、我が国の伝統芸能の新しい流れを知り、愛国心を育成できるようにしました。(第一号及び第五号)</li> <li>・ 我が国に伝承されている諸芸能の四季の様子を写真を用いて示し、それぞれの特徴を感じ取るとともに、4つの芸能を詠んだ俳句を紹介し、各地に伝承されている文化を知ることができるよう工夫しました。(第一号及び第五号)</li> </ul>	<p>p. 4, 5 歌舞伎とシェークスピアの出会い</p> <p>p. 56, 57 音の歳時記</p>

### 3. 上記の記載事項以外に特に意を用いた点や特色

#### ① 我が国の音楽文化

我が国や郷土を愛する態度を育成できるように、我が国の音楽文化について取り上げる際には、その背景や生活との関わりなども示しました。  
p.50～52, p.54～57



#### ② さまざまな場面で取り組める合唱曲

音楽を学校生活により生かすことができるように、「音楽の歓び」の楽譜集ページには、行事等でも取り上げることのできる合唱曲を掲載しました。p.88～97

#### ③ 学習内容が一目で分かる目次

各教材の学習目標を明記し、学習指導要領に示された音楽科における学習内容を踏まえつつ、学習指導要領の「内容」に準拠したバランスのよい学習が行われるように配慮しました。

#### ④ 学習目標や学習活動文とコラム

音楽についての基礎的な理解を促進するために、各教材には学習目標を明確に示すとともに、それに即した学習活動文や吹き出しによる問いかけなどを示しました。

また、教材によってはコラムを設け、より具体的な観点に基づいた学習ができるよう工夫しました。

p.21, p.35, p.38, p.45,  
p.48, p.49, p.58, p.59

斬新なリズムと響きによる表現を感じ取ろう ← 学習目標

### 音楽史上の大事業となった『春の祭典』

コラムと吹き出し

●『春の祭典』初演時のバレエの様子を見てみよう

初演が大スキャンダルとなったのは、音楽の斬新さだけでなく、バレエの前衛的な振り付けにも原因がありました。それまでのバレエの優雅と洗練といったイメージからかけ離れた、粗野でどこか不気味な動作による『春の祭典』の踊りが、当時の人々の目にとどったのか、想像してみましょう。

足を内股にしたり、首や顔を不自然に歪めたりしているよ。みだん目にする楽しいバレエのポーズとは違っているね。

ニジンスキーの振り付け

『春の祭典』の振り付けをしたのは、興行師ディアギレフが創設したバレエリュス(ロシアバレエ団)のダンサーであるヴァーツラフ・ニジンスキー(Vaslav Nijinsky (1890～1950))であった。ニジンスキーはこのバレエの振り付けで前衛的な方法を用いた。足を内股にして跳躍したり(クラシックバレエでは外股で足の運び方も決まった型がある)、首は斜めに傾けたりと、伝統的なクラシックバレエでは考えられない振り付けであった。ニジンスキーは、太古のロシアにおける春の儀式をこのような振り付けで表現しようとした。しかし、初演で聴衆が騒乱を引き起こす原因の一つとなってしまった。

『コメディア』展 1913年5月31日付に掲載された『春の祭典』初演時のバレエダンサーの写真

バレエ『春の祭典』第1部から

#### ⑤ 西洋音楽史の流れが分かるコラム「音楽史羅針盤」

西洋音楽の鑑賞の学習活動と関連付けて、楽曲が作られた時代背景などの音楽史に関する知識を養うことができるよう、コラム「音楽史羅針盤」を掲載しました。

p.37, p.39, p.41, p.45, p.49, p.77, p.81, p.87, p.99

音楽史羅針盤  
楽曲からみる音楽の流れ

### 古典派の作曲家が活躍した時代

18世紀に大きな潮流となった啓蒙思想は、従来の迷信や超自然的なものを否定し、合理性や人間性を重視する考え方でした。それは、貴族に支配されていた市民の台頭を促し、社会制度を変革する力になっただけでなく、文化にも大きな影響を与えることになりました。つまり、経済的に成功した商人や市民が、貴族と同様にこの時代の芸術活動の支援者となったのです。彼らは貴族たちの文化を自らも楽しむようになり、アマチュアの芸術愛好家になりました。家庭で音楽を楽しむ人々が増えたことにより、音楽家が彼らに音楽のレッスンをしたり、オペラやオラトリオから人気のアリアを鍵盤楽器用に編曲したりする仕事が生れました。楽器や歌などの独習書が作られるようになるのもこの時期からです。モーツァルトやベートーヴェン(Ludwig van Beethoven(1770～1827))のウィーンでの音楽活動は、このような一面によっても支えられていました。

# 編修趣意書

(学習指導要領との対照表)

受理番号	学 校	教 科	種 目	学 年
28-82	高等学校	芸 術	音楽Ⅱ	
発行者の 番号・略称	教科書の 記号・番号	教 科 書 名		
27 教芸	音Ⅱ 309	高校生の音楽2		

## 1. 編修上特に意を用いた点や特色

### ①基礎的・基本的な知識・技能の習得への配慮

前半の歌唱，器楽，創作，鑑賞教材のセクションにおいては，全ての教材に学習目標を示すとともに，それに迫るための具体的な学習活動を手順に沿って示し，基礎的・基本的な知識，技能を確実に習得できるように配慮しました。さらに，思考・判断を行うための指針となる問いかけを「吹き出し」の形で示し，学習の観点が明確になるように工夫しました。また，言語活動を促す文言を示し，生徒の表現力が育成されるように配慮しました。さらに，創造的に音楽活動に関わり，中学校で学習した基礎的な表現と鑑賞の能力をさらに発展させ，確実に身につけていくことができるように，適切な教材を選択しました。

### ②学習指導要領の「内容」との関連の明示

各教材の学習目標を明記し，学習指導要領の「内容」に示された指導事項をバランスよく扱うことができるようにしました。

特に前半の歌唱，器楽，創作，鑑賞教材については，各教材の学習目標を大きく示し，指導要領の「内容」に示された学習活動を確実に行うことができるように配慮しました。

### ③道徳教育へのアプローチ

他の人々に対する思いやりの心を持ち，人との関わりの大切さを理解するなど，道徳教育に資する歌詞をもつ歌唱教材を取り入れました。また，協同する感動や喜びを味わうことのできる合唱曲や合奏曲を取り上げました。さらに，我が国の伝統的な音楽や長く歌い継がれてきた歌の学習を通して，日本人としての自覚をもつことができるように内容を充実させたほか，伝統を重んじる心を養うことができるよう我が国の伝統音楽の写真を多数掲載しました。

### ④音楽を理解するための記述

鑑賞教材において，各楽曲の構造をイラストや譜例などを駆使して分かり易く示し，音楽の構造や仕組みなどをしっかりと理解しながら学習を進められるよう配慮しました。また，鑑賞や楽譜集ページに設けた「音楽史羅針盤」では楽曲の生まれた時代背景を知り，学習内容を深められる構成にしました。



